

「一生使える」を、一冊に
平成二十四年度版「中学書写」の特色



みやざわ まさ あき
宮澤正明

山梨大学教育人間科学部教授、大東文化大学講師。1952年、静岡県生まれ。光村図書の小・中学校書写、高等学校書道の編集委員。

著書に、『書写なんでも百科第3・4巻』（岩崎書店）、『毛筆書写墨場必携』（日本習字普及協会）など。

現行版の書写教科書は、一年用と、二・三年用の二冊なっています。これは、学習指導要領の学習事項が、一年と二・三年とに分かれていたためで、教科書もそれに従って分冊にしていました。

ところが、今回の学習指導要領の改訂によって、学習事項が変更になったため、一年、二・三年の分冊にする必然や制限がなくなりました。このため、光村図書の新版教科書は、生徒や先生にとっていちばんメリットが多い、「三学年合本」という形にしました。

一、二、三年が一冊にまとまった「三学年合本」の教科書を使うことによって、大きく次の三つのメリットがあります。

一冊だからできること

- ① 学年を超えた見通しと振り返りが可能
- ② 限られた時間で、行書が無理なく確実に定着
- ③ いつでもすぐに使える活動で、日常とつながる

では、具体的に教科書の紙面を使ってそれぞれのポイントについて見ていきましょう。



現行版教科書



平成 24 年度版教科書

資料		三年生		二年生		一年生			
手書きの力		2 未来に向かって	1 身の回りの文字を調べよう	3 楷書か行書を選んで書く	2 漢字と仮名を調和させて書く	1 行書を書いて確かめよう	3 広げよう 書写の輪	2 行書を書く	1 楷書を書く
113	105	80	78	60	58	49	38	35	21
98	90	77	74	64	62	48	36	34	18
82		74	72	57	56	46		32	16
		71	70	54	52	44		30	14
		68	66	50		42		28	12
						41		27	8
						40		22	

目次

一冊だからできること

① 学年を超えた
見通しと
振り返りが可能

子どもたちは、目次で三年間の書写学習を見通すことができるので、学年の枠を超えて学習内容を知ることが可能となり、前学年の既習事項を振り返ることもできます。そのため、何を目指して学習するのか、自分が今どの段階にいるのかを確認しながら、主体的な学習ができるようになります。

また、「目習い」という言葉がありますが、これから学ぶことを先取りして知ることができるのも、子どもたちの興味・関心を高める効果があるのではないのでしょうか。

先生方にとっては、系統的な指導の計画が立てやすいというメリットがあります。「前学年の学習を確認したいのに、教科書がないので確認できない」などという声にも応えることができます。



P.29



P.28

行書の五つの特徴を俯瞰するページと、それぞれを詳しく学ぶページがリンクされている

② 限られた時間で、 行書が無理なく 確実に定着

一冊だからできること

中学校書写は行書の学習が大きな柱となります。三年間で五十単位時間という限られた時間の中で、行書をより効率的に学び、定着を図ることが求められます。

教科書が一冊になったことにより、二、三年生になっても、一年生で学んだ行書の基本に立ち返ることが容易で、それをすぐに現在の学習に生かすことができるのです。

また、行書の五つの特徴を、ひと目で見渡せる折り込みまとめ、それぞれの特徴をしっかりと学ぶページと行き来しながら、確実な定着を図る工夫もしています。一つ一つ学んだ「点」が、この折り込みページを通して結ばれているので、非常に効率的に定着を図ることができます。

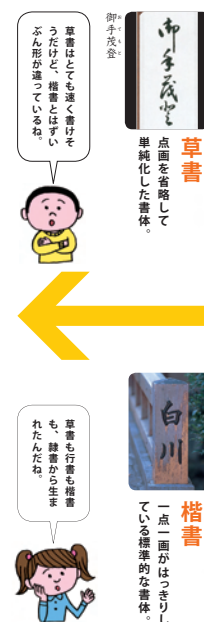
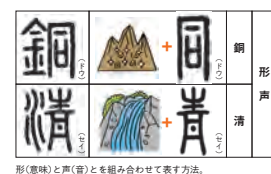
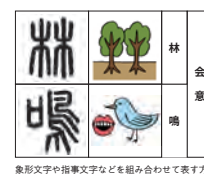
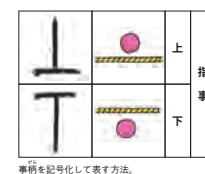
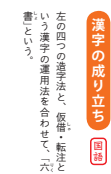


行書
練習の点画を省略したり連続して描ける書体



26

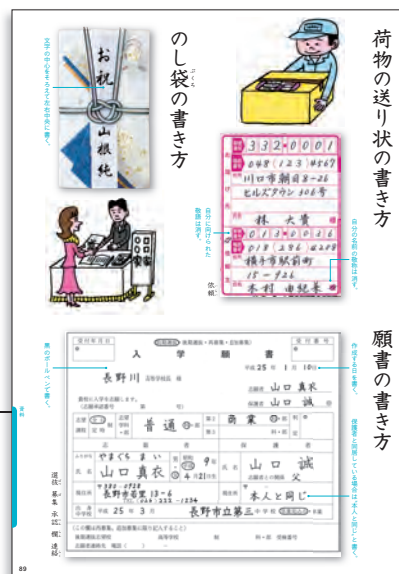
25



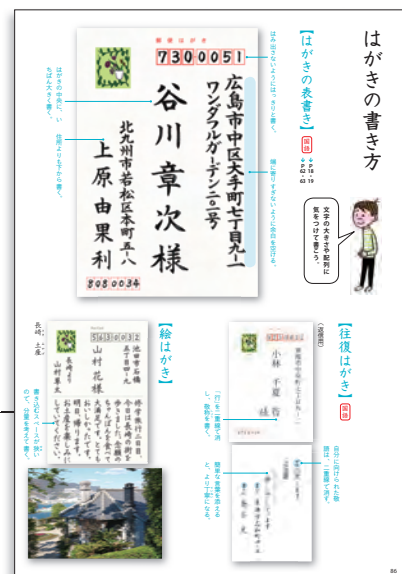
P.23 ~ P.26

書写教科書		国語教科書の該当箇所	
一年 P 14・15	いろは歌	一年 P 131・132	いろは歌
三年 P 17	季節のしおり 春	三年 P 31	いろいろな通信文
P 18	漢字の成り立ち	一年 P 253	漢字の成り立ち
P 23・24	漢字の成り立ち	一年 P 212・213	漢字の成り立ち
P 36・37	漢字の成り立ち	一年 P 206・211	漢字の成り立ち
二年 P 44・45	漢字の成り立ち	一年 P 68・71	漢字の成り立ち
P 50	漢字の成り立ち	二年 P 56・57	漢字の成り立ち
P 56	漢字の成り立ち	二年 P 153	漢字の成り立ち
P 58・59	漢字の成り立ち	二年 P 134・143	漢字の成り立ち
二年 P 108・111	漢字の成り立ち	二年 P 208・212	漢字の成り立ち
三年 P 75	漢字の成り立ち	二年 P 108・111	漢字の成り立ち
三年 P 31	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
三年 P 184・188	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
資料 P 82・83	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
P 84	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
P 86	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
P 87	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春
後ろ見返し	季節のしおり 春	二年 P 108・111	季節のしおり 春

さらに
国語の授業とも
タイアップできる教材も
たくさん用意しています



P.89



P.86

③ いつでもすぐに
使える活動で、
日常とつながる

手紙やはぎの書き方など学校生活で
ぐに活用できる例から、のし袋など将来の
社会生活に活用できる例まで、一生を通じ
て使える実用的な資料を、巻末にまとめて
掲載しています。学年や時期を問わず実態
に合った活用ができる、資料性の高い一冊



P74～P75



これらの文字は、編集委員の宮澤正明先生にお書き
いただいたものです。画に

す。
現行の教科書でも一部で
使われていますが、新版で
は教材文字の穂先の通る軌
跡がはっきりわかる示し方
を、さらに多用しています。
この手法を使うと、曲が
りの部分の穂先の向き、は
ねたところの穂先がどこか
ら出ているのか、画の重な
り方など、鮮明にわかるの
で、生徒が実際に書くとき
の参考として大変役立ちま
す。

穂先の通り道がはっきりわかる 墨の濃淡で示した教材文字

よって墨の濃淡の具合が変
わらないように気をつけ
ながら、一教材を仕上げる
のに、だいたい三十〜四十
枚は書かれたそうです。

書くスピードは、実際に
書くときと同様で、必要
以上にゆくり筆を運ぶと
蛇の鱗のような模様がで
てしまふそうです。墨の作
り方も大事で、濃すぎても
だめ、薄すぎてもだめ。ま
た、穂先から根元まで全
体の濃淡のバランスも微妙な
加減が必要です。

さらに用紙選びには苦勞
されたそうで、印画紙や
ボール紙、フィルムなどい
ろいろなものを書いてみて
やっと現在の用紙にたどり
着きました。

試行錯誤を繰り返し、新
版の教材文字はでき上がり
ました。